

## 簡単スキーについて

藻岩レルヒ会々長 原田廣記

明治44年(1911年)日本に始めてスキー技術を伝えたのがオーストリアの軍人テオドル・エドラ・フォン・レルヒ少佐です。来年で100年になります。

そこで、スキーの原点に戻って見つめ直そうと思います。

ここ数十年でスキー技術や用具が、どんどんと進化し変化してきました。

アルペン・ノルデックと専門的になってきた、技術を高めていきそれに伴い用具も開発され競技専用になっている。

選手を養成するには良いのですが、一般的には、そこまで必要なのかと思います。

費用面から見ても、用具は高価になり技術講習も高くなっています。

走るには、ノルデック用のスキー用具一式が必要になります。

滑るには、アルペン用のスキー用具一式が必要になりますので、これを一つにしたスキー用具にまとめてどちらも楽しめる昔のスキーのように1台で歩くことも滑ることも出来るようにすると冬期間、雪の上で楽しむことが出来る。

1台のスキーでアルペン・ノルデックの両方のスキーを兼ねることが出来ると費用がかからず負担が少なくて済みます。

スキーヤーの底辺拡張や幼児・小学校のスキー授業には最適であり、そこから先は専門的にスキーを分業化して行けば良いのではないかと思います。

多くの人に「簡単スキー」を普及したいと思っています。

## スキー用具の開発取り組み

藻岩レルヒ会々長 原田廣記

1 簡単にスキーが楽しめる。

冬季間、雪に閉ざされて運動不足に成りがちですが、これを解消

2 スキーの原点に戻る。

明治44年レルヒ少佐が日本に始めてスキー技術を伝えた当時に帰る

3 手軽に自分の冬靴で滑れる。

スキーブーツが無くても自分の冬靴で、そのままスキーが出来る

4 操作が簡単である。

子供から高齢者まで、スキーの着脱がしやすい

5 軽くて持ち運びが便利。

スキー板が、軽くて長さが短いので持ちやすい

6 用具が安価である。

一台のスキーでアルペンスキーもノルデックスキーも楽しめる

7 スキー人口の拡大。

最近スキー人口が減少しているが誰でも手軽に近くの公園でも楽しめることが出来ると利用者が増加する。子供の発育に合わせてスキー用具を買い換えなくて良い。

\* 「簡単スキー」について北海道社会福祉協議会から助成金をいただき、スキー用具・スキー講習に取り組んでいます。